

〔授業のポイント〕

本教材は、1995年(平成7年)に発生した阪神・淡路大震災直後の避難所での様子を扱ったものである。人々が力を合わせて働かなければ生活できないという厳しい状況であるが、主人公たちはその中でボランティア活動を思い立ち、避難者への息の長い支援を続ける。自分たちの行いが多くの人の喜びや安心につながることに喜びを感じ、互いに支え合っている実感を味わうとともに、「働く」ことの意味について考えることができる教材である。指導に当たっては、特に3か月たってもボランティアを続けた子どもたちの心情に焦点化し、どのような思いが子どもたちの勤労意欲を支えたかを話し合う。また、総合的な学習の時間の「ユニバーサルデザイン in 江東」の学習を生かしつつ、避難所で生活している様々な人たちに寄り添うボランティアとはどういったことなのかについて考えさせ、進んで人のために働こうとする心情を育てたい。

〔授業の流れ〕

(導入)震災について知る。



(展開前段)資料「ネコの手ボランティア」を読んで話し合う。

- ① 夕食を配る手伝いをしようと思った侑加さんと由美子さんは、どんな気持ちだったのかを考える。
- ② 三日後には、智江さんと由佳さんも仲間に入ったのはどのような思いからかを考える。
- ③ 3か月たっても4人がボランティアを続けていたのは、どのような思いからかを考える。



(展開後段)自分ができるボランティアは何かを考える。



(終末)「進んで人のために働くこと」について、学んだことをまとめる。